

令和4年度徳島県田園環境検討委員会

I 日 時

令和5年3月7日（火）午後2時から午後4時15分

II 場 所

徳島県庁4階 403会議室

III 出席者

【委員】井藤大樹、尾崎澄子、上月康則、後藤月江、谷野圭助、西岡さち子、板東達生、森紗綾香、山城考（アイウエオ順 敬称略 10名中9名出席）

【 県 】農山漁村振興課長，生産基盤課長他

IV 委員会次第

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

（1）農業農村整備事業の「環境との調和への配慮」について

（2）農業農村整備事業の環境配慮実績について

4 閉 会

<配付資料>

- ・会議次第
- ・配席図
- ・徳島県田園環境検討委員会等設置要綱
- ・徳島県田園環境検討委員会委員名簿
- ・審議地区の環境との調和への配慮取組み
- ・環境配慮実績報告書

V 会議録（要旨）

1 開 会

2 挨拶 農山漁村振興課長

3 議 事

(1) 農業農村整備事業の「環境との調和への配慮」について

①経営体育成基盤整備事業 八幡地区

【委員】

事業によって用排分離され、用水路はパイプライン化されるため、これまでどおり上流（那賀川）から魚が流入してこれない。また、排水路は現状どおりの開水路となるが、幾島川（地域の排水先）と落差があることで、当該地域だけ水路ネットワークが完全遮断される孤立した状態となり、魚介類が激減することが見込まれる。

【県】

パイプライン化するのは、ポンプ場から各ほ場への配水部分のみであり、事業によって地区内にポンプ場を設置し、水源は従来どおり那賀川から取水した用水となる。当該地域と生物供給源である那賀川とは、那賀川北岸幹線水路（開水路）で接続されており、水路ネットワークはこれまでどおり川と接続された状態である。

【委員】

水路の土砂溜まり区間について、大規模な構造物を数箇所設置するか、小規模な構造物を細かく設置すること。深さは、50センチ程度確保しないと効果発現しない。

【県】

排水路について、交差したり折れたりする箇所には柵を設置している。柵の底版は排水路の敷より低いため、柵も土砂溜まり区間としてうまく活用したい。

【委員】

当該地域は、特定外来植物に限らず外来植物が多い印象。工事で重機を使用した際、外来植物が重機に付着することが想定される。重機が移動することで外来植物を拡げてしまう可能性があるため、重機を移動させる際は、可能な限り洗浄するなど配慮をお願いしたい。

【委員】

土壌を再利用する件について、当該地域は海岸に近いことから、硫化物を含む海なりの沖積層と考える。ほ場整備によって心土が露出され、空気や雨水との反応により硫酸が生じ酸性土壌になると想定される。耕土は当然に行われるが、植物を再移植する土壌においても、農業支援センターなど関係機関と連携し、土壌診断などの対応をお願いしたい。

【委員】

完成した構造物は農家による維持管理となり、適切な維持管理を継続してもらうために啓発を行うとあるが、これからも永続的に機能させるには、本当に啓発だけで大丈夫か。

【県】

多面的機能支払交付金事業という地元で取り組むソフト事業があり、環境に配慮した取り組みも交付金の対象とすることができる。また、泥上げを行った経費を工面することも可能であり、このような事業があることを地域に対して十分周知していきたい。

また、今年度中に「徳島県みどりの食料システム戦略基本計画」を策定し、「持続可能な農林水産業」を目指すため各種施策に取り組むこととしている。「調達から消費まで」を「みどりの循環」として捉え、農業者のみならず消費者にも農村環境の価値を理解して頂き、県民全員で本県の田園環境を守っていけるよう推進したい。

【委員】

基盤整備事業を行う地区は、地域がまとまっている。役員や地域農業者は意識の高い人が多いため、啓発だけで県の意向を守ってくれると思う。

②老朽ため池等整備事業 地神池地区

【委員】

魚介類の配慮について、工事期間中一時避難させ、工事完了後同池に戻す計画であるが、これだけで成功するのか。

【県】

ため池上流部に溜水域を確保し工事期間中はそこへ移動させる。または同一水系に桶川池が上流側にあるため、工事実施前に桶川池へ移動させる。工事完了後は自然流下により、地神池に戻ってくることが想定される。

(2) 農業農村整備事業の環境配慮実績について

【委員】

長生西部について、アイノコヒルムシロの移植個体数は不明であるが、オグラコウホネと一緒に移植したことで競争に負けて消失した可能性がある。植え方、個体数などを工夫してほしい。

ほ場整備の工事において、従前の表土を剥ぎ取り、仮置きし戻しているが、ほ場に植生する植物に関しては効果的かと思われるが、水路周辺を好む植物に関しては生育してこない可能性がある。場合分けを行い、適地に表土戻しをお願いしたい。

また、工事実施前後において、植物相がどのように変化したか確認してほしい。希少種だけではなく、帰化植物がどの程度増えたのか、そのようなデータがあれば有効な評価がしやすい。

【県】

専門家と相談の元、植物相が多い地域などについては必要に応じて対応したい。

【委員】

長生西部について、カワヂシャの生育箇所が工事実施前後で変わっているのはなぜか。

【県】

水気を好み土水路付近に生育する植物であるため、工事によって土水路が減少したことが原因。工事実施後に生育している箇所は天津田川沿いであるため、改変された自然環境に適応しようとして移ったと考える。可能な限り元来の自然環境を喪失しないよう、影響の回避・軽減・代替池の施工など取り組んで参りたい。

【委員】

これまでの環境配慮の取り組みについて、実績が多く蓄積されており、種毎にどのような配慮を行うことで成功するかが分かってきているため整理をお願いしたい。

【委員】

昔に比べて排水路の水質が良くなっている気がする。近年環境配慮に対する意識が高まりつつあり、周囲の意識によって環境は良くも悪くもなる。農家だけではなく、一般にも呼びかけをお願いしたい。

4 閉 会